制酸薬

	リスクの程度の評価		A 薬理作用	B 相互作用		C 重篤な副作用のおそれ		C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		D 濫用のおそれ	E 患者背景（既往歴、治療状況等）（重篤な副作用につながるおそれ）		F 効能・効果（症状の悪化につながるおそれ）		G 使用方法（誤使用のおそれ）			H スイッチ化等に伴う使用環境の変化		
	評価の視点		薬理作用	相互作用		重篤な副作用のおそれ		重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		薬理に基づく習慣性	適応禁忌	慎重投与（投与により障害の再発・悪化のおそれ）	症状の悪化につながるおそれ	適応対象の症状の判別に注意を要する（適応を誤るおそれ）	使用方法（誤使用のおそれ）			スイッチ化等に伴う使用環境の変化	用法用量	効能効果
				併用禁忌（他剤との併用により重大な問題が発生するおそれ）	併用注意	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの						使用量に上限があるもの	過量使用・誤使用のおそれ	長期使用による健康被害のおそれ			
制酸成分	ケイ酸アルミン酸マグネシウム	スピーゲル	酸中和作用、制酸薬		テトラサイクリン系抗生物質・ニューキノロン系抗菌剤（これらの薬剤の効果が減弱）、併用薬剤（併用薬剤の吸収・排泄に影響）			頻度不明（悪心・嘔吐・便秘・下痢・口渇等・かゆみ）			透析療法（長期投与によりアルミニウム脳症、アルミニウム骨症）	腎障害、心機能障害、高マグネシウム血症、リン酸塩低下、高齢者					長期大量投与により高マグネシウム血症、長期投与でアルミニウム脳症・アルミニウム骨症		通常成人1日1.5～4gを3～4回に分割経口投与する。 高齢者では減量。	胃・十二指腸潰瘍、胃炎（急・慢性胃炎、薬剤性胃炎を含む）、上部消化管機能異常（神経性食思不振、いわゆる胃下垂症、胃酸過多症を含む）の症状の改善
	酸化マグネシウム	マグラックス錠	制酸作用（胃内）、中和力は炭酸マグネシウムの2倍以上、炭酸水素ナトリウムの約4倍。排便促進作用（腸内）。		テトラサイクリン系抗生物質・ニューキノロン系抗菌剤・エチドロン酸二ナトリウム・セフジニル（これらの薬剤の吸収を阻害）、高カリウム血症改善イオン交換樹脂製剤（これらの薬剤の効果が減弱、アルカローシス）、活性型ビタミンD3製剤（高マグネシウム血症）、大量の牛乳・カルシウム製剤[milk-alkali syndrome（高カルシウム血症・高窒素血症・アルカローシス等）]、ジギタリス製剤・鉄剤等（これらの薬剤の吸収・排泄に影響）、他の併用薬剤（併用薬剤の吸収・排泄に影響）			頻度不明（高マグネシウム血症・下痢）、1.1%（腹痛）				腎障害、心機能障害、高マグネシウム血症、下痢、高齢者					長期大量投与で高マグネシウム血症		1.酸化マグネシウムとして、通常成人1日0.5～1.0gを数回に分割経口投与。 2.酸化マグネシウムとして、通常成人1日2gを食前又は食後の3回に分割経口投与するか、又は就寝前に1回投与。 3.酸化マグネシウムとして、通常成人1日0.2～0.6gを多量の水とともに経口投与。 高齢者では減量。	1.胃・十二指腸潰瘍・胃炎（急・慢性胃炎、薬剤性胃炎を含む）・上部消化管機能異常（神経性食思不振、いわゆる胃下垂症、胃酸過多症を含む）における制酸作用と症状の改善 2.便秘症 3.尿路蓚酸カルシウム結石の発生予防
	ジヒドロキシアルミニウムアミノアセテート（別名：アルミニウムグリシネート）	ダイアルミネート（ブファリン等の配合剤）配合剤のみ																		
	乾燥水酸化アルミニウムゲル	ホエミゲル	制酸作用、粘膜保護作用、収れん作用		クエン酸製剤（血中アルミニウム濃度が上昇）、血清カリウム抑制イオン交換樹脂（併用薬剤の効果が減弱） テトラサイクリン系抗生物質・ニューキノロン系抗菌剤・イソニアジド・ジギタリス製剤・フェニトイン・フェノチアジン誘導体・β-遮断剤・非ステロイド系解熱消炎鎮痛剤等（併用薬剤の吸収を遅延又は阻害）、ペニシラミン（併用薬剤の効果が減弱）、ミコフェノール酸モフェチル（併用薬剤の作用が減弱）、甲状腺ホルモン剤・胆汁酸製剤（併用薬剤の吸収を遅延又は阻害）・キニジン等（併用薬剤の排泄が遅延）			頻度不明（便秘・悪心・嘔吐等・アルミニウム脳症、アルミニウム骨症等）			透析療法（長期投与によりアルミニウム脳症、アルミニウム骨症）	リン酸塩の欠乏、腎障害、高齢者					アルミニウム脳症・アルミニウム骨症		乾燥水酸化アルミニウムゲルとして1日1～3gを数回に分割経口投与する。	下記疾患における制酸作用と症状の改善 胃・十二指腸潰瘍、胃炎（急・慢性胃炎、薬剤性胃炎を含む）、上部消化管機能異常（神経性食思不振、いわゆる胃下垂症、胃酸過多症を含む） 尿中リン排泄増加に伴う尿路結石の発生予防

制酸薬

	リスクの程度の評価		A 薬理作用	B 相互作用		C 重篤な副作用のおそれ		C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		D 濫用のおそれ	E 患者背景(既往歴、治療状況等)(重篤な副作用につながるおそれ)		F 効能・効果(症状の悪化につながるおそれ)		G 使用方法(誤使用のおそれ)			H スイッチ化等に伴う使用環境の変化		
	評価の視点		薬理作用	相互作用		重篤な副作用のおそれ		重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		薬理に基づく習慣性	適応禁忌	慎重投与(投与により障害の再発・悪化のおそれ)	症状の悪化につながるおそれ	適応対象の症状の判別に注意を要する(適応を誤るおそれ)	使用方法(誤使用のおそれ)			スイッチ化等に伴う使用環境の変化	用法用量	効能効果
				併用禁忌(他剤との併用により重大な問題が発生するおそれ)	併用注意	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの						使用量に上限があるもの	過量使用・誤使用のおそれ	長期使用による健康被害のおそれ			
制酸成分	炭酸水素ナトリウム	重曹錠500mg「メルク」	制酸作用。尿酸排泄抑制作用(尿のpHをアルカリ性にする)、尿路結石の予防。	マンデル酸ヘキサミン(併用薬剤の効果を減弱)	大量の牛乳・カルシウム製剤[milk-alkali syndrome(高カルシウム血症・高窒素血症・アルカローシス等)]、他の併用薬剤(併用薬剤の吸収・排泄に影響)			頻度不明(浮腫、胃部膨満、胃酸の二次的分泌)			高ナトリウム血症、浮腫、妊娠中毒症等のナトリウム摂取制限(症状悪化)	重篤な消化性潰瘍、腎障害、心機能障害、肺機能障害、低クロル性アルカローシス等の電解質失調	重篤な消化性潰瘍患者において胃酸の二次的分泌-リバウンド現象-の可能性						炭酸水素ナトリウムとして、1日3～5g(6錠～10錠)を数回に分割経口投与する。 高齢者では減量。	胃・十二指腸潰瘍、胃炎(急・慢性胃炎、薬剤性胃炎を含む)、上部消化管機能異常(神経性食思不振、いわゆる胃下垂症、胃酸過多症を含む)における制酸作用と症状の改善、アシドーシスの改善、尿酸排泄の促進と
	炭酸マグネシウム	「純生」炭マ	制酸作用:効力は酸化マグネシウムの約1/2。溶下作用:硫酸マグネシウムに劣る。 非吸収性であり、アルカローシスを生じない。		テトラサイクリン系抗生物質・ニューキノロン系抗菌剤・エチドロン酸二ナトリウム・セフジニル(これらの薬剤の効果が減弱)、他の併用薬剤(併用薬剤の吸収・排泄に影響)、大量の牛乳・カルシウム製剤[milk-alkali syndrome(高カルシウム血症・高窒素血症・アルカローシス等)]			頻度不明(高マグネシウム血症・下痢)				腎障害、心機能障害、高マグネシウム血症、下痢、高齢者					長期大量投与で高マグネシウム血症		1.1日2 gを数回に分割経口投与。高齢者では減量 2.1日3 ～ 8 gを頓用又は数回に分割経口投与。 高齢者では減量。	1.胃・十二指腸潰瘍、胃炎(急・慢性胃炎、薬剤性胃炎を含む)、上部消化管機能異常(神経性食思不振、いわゆ胃下垂、胃酸過多症)における制酸作用と症状の改善 2.便秘症
	沈降炭酸カルシウム	沈降炭酸カルシウム	制酸作用		テトラサイクリン系抗生物質(併用薬剤の効果が減弱)、他の併用薬剤(併用薬剤の吸収・排泄に影響)、牛乳[milk-alkali syndrome(高カルシウム血症・高窒素血症・アルカローシス等)]、ビタミンD(高カルシウム血症)			5%以上又は頻度不明(高カルシウム血症・アルカローシス等の電解質失調・腎結石・尿路結石・悪心・嘔吐・便秘・下痢)、0.1%未満(胃酸の反動性分泌)	5%以上又は頻度不明(過敏症)		甲状腺機能低下症又は副甲状腺機能亢進症(症状悪化)	腎障害、心機能障害、肺機能障害、高カルシウム血症、便秘、高齢者	胃酸の反動性分泌						沈降炭酸カルシウムとして、1日1～3gを3～4回に分割経口投与。 高齢者では減量。	胃・十二指腸潰瘍、胃炎(急・慢性胃炎、薬剤性胃炎を含む)、上部消化管機能異常(神経性食思不振、いわゆる胃下垂症、胃酸過多症を含む)の症状の改善
	ロートエキス	ロートエキス散「ホエイ」	副交感神経抑制作用:アセチルコリンのムスカリン用作用と競合的に拮抗。胃酸又はペプシンの分泌を抑制。		三環系抗うつ剤・フェノチアジン系薬剤・モノアミン酸化酵素阻害剤・抗ヒスタミン剤・イソニアジド(抗コリン作用の増強)			頻度不明(視調節障害・散瞳・羞明・めまい・霧視・調節障害等・口渇・悪心・嘔吐・便秘等・排尿障害・頭痛・頭重感・めまい等・頻脈等・顔面潮紅) 自動車の運転等危険を伴う機械の操作	頻度不明(過敏症)		緑内障(症状悪化)、前立腺肥大による排尿障害(症状悪化)、重篤な心疾患(症状悪化)、麻ひ性イレウス(症状悪化)	前立腺肥大、うっ血性心不全、不整脈、潰瘍性大腸炎、甲状腺機能亢進症、高温環境、高齢者、妊婦または妊娠している可能性のある婦人、授乳婦							ロートエキスとして、1日20～90mg(本剤:0.2～0.9g)を2～3回に分割経口投与。	胃酸過多・胃炎・胃・十二指腸潰瘍・痙攣性便秘における分泌・運動亢進並びに疼痛

制酸薬

	リスクの程度の評価		A 薬理作用	B 相互作用		C 重篤な副作用のおそれ		C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		D 濫用のおそれ	E 患者背景(既往歴、治療状況等)(重篤な副作用につながるおそれ)		F 効能・効果(症状の悪化につながるおそれ)		G 使用方法(誤使用のおそれ)			H スイッチ化等に伴う使用環境の変化		
	評価の視点		薬理作用	相互作用		重篤な副作用のおそれ		重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		薬理に基づく習慣性	適応禁忌	慎重投与(投与により障害の再発・悪化のおそれ)	症状の悪化につながるおそれ	適応対象の症状の判別に注意を要する(適応を誤るおそれ)	使用方法(誤使用のおそれ)			スイッチ化等に伴う使用環境の変化	用法用量	効能効果
				併用禁忌(他剤との併用により重大な問題が発生するおそれ)	併用注意	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの						使用量に上限があるもの	過量使用・誤使用のおそれ	長期使用による健康被害のおそれ			
胃酸分泌抑制成分	塩酸ピレンゼピン	ガストロゼピン錠	選択的ムスカリン受容体拮抗薬(胃酸分泌抑制作用、抗ガストリン作用)			無顆粒球症(頻度不明)	アナフィラキシー様症状(頻度不明)	0.1～5%未満(口渇・便秘・下痢・悪心・嘔吐)、0.1%未満(歯肉痛・膨満感・排尿困難・残尿感・AST(GOT)上昇・ALT(GPT)上昇・心悸亢進・頭重感・たちくらみ・脱力感・嗄声・眼のちらつき・眼の乾燥感に伴う流涙・眼の調節障) 自動車の運転等危険を伴う機械の操作	0.1～5%未満(過敏症)		過敏症の既往歴	前立腺肥大、緑内障、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人、授乳婦、低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児、高齢者							1回1錠(塩酸ピレンゼピン無水物として25mg)を、1日3～4回経口投与。 高齢者では減量。	急性胃炎・慢性胃炎の急性増悪期の胃粘膜病変(びらん、出血、発赤、付着粘液)並びに消化器症状の改善、胃潰瘍・十二指腸潰瘍

健胃薬

	リスクの程度の評価		A 薬理作用	B 相互作用		C 重篤な副作用のおそれ		C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		D 濫用のおそれ	E 患者背景（既往歴、治療状況等）（重篤な副作用につながるおそれ）		F 効能・効果（症状の悪化につながるおそれ）		G 使用方法（誤使用のおそれ）			H スイッチ化等に伴う使用環境の変化		
	評価の視点		薬理作用	相互作用		重篤な副作用のおそれ		重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		薬理に基づく習慣性	適応禁忌	慎重投与（投与により障害の再発・悪化のおそれ）	症状の悪化につながるおそれ	適応対象の症状の判別に注意を要する（適応を誤るおそれ）	使用方法（誤使用のおそれ）			スイッチ化等に伴う使用環境の変化	用法用量	効能効果
				併用禁忌（他剤との併用により重大な問題が発生するおそれ）	併用注意	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの						使用量に上限があるもの	過量使用・誤使用のおそれ	長期使用による健康被害のおそれ			
酵母	乾燥酵母	乾燥酵母「ホエイ」	乾燥酵母は含有する諸成分が総合して栄養補給、代謝機能促進、食欲増進、整腸などの薬効を現す。					頻度不明（大量投与による下痢）								大量で下痢			乾燥酵母として、通常成人1日5～10gを3回に分割経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。	ビタミンB群、たん白質の需要が増大し、食事からの摂取が不十分な際の補給
胃腸機能調整成分	塩化カルニチン	アベダイン液	副交感神経興奮薬 胃液中のペプシン量と総酸度の増加					頻度不明（胸やけ、喘気等）			過酸症（増悪）、急性膵炎又は慢性膵炎で急性増悪がみられる（症状が増悪）	妊婦又は妊娠している可能性のある婦人、授乳婦、新生児・未熟児							塩化カルニチンとして、通常成人1日100～600mg（本剤1～6 mL）を3回に分割経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。	消化管機能低下のみられる慢性胃炎
	マレイン酸トリメブチン	セレキノン錠	胃腸機能調整薬 運動調律作用、運動機能障害					0.1%未満（便秘、下痢、腹鳴、口渇、口内しびれ感、悪心、嘔吐、心悸亢進、眠気、めまい、けん怠感、頭痛、AST(GOT)・ALT(GPT)の上昇、排尿障害、尿閉）	0.1%未満（過敏症）			妊婦又は妊娠している可能性のある婦人、授乳婦、小児							1.マレイン酸トリメブチンとして、通常成人1日量300mg（錠3錠、細粒1.5g）を3回に分けて経口投与。高齢者では減量。 2.マレイン酸トリメブチンとして、通常成人1日量300～600mg（錠3～6錠、細粒1.5～3.0g）を3回に分けて経口投与。高齢者では減量。	1.慢性胃炎における消化器症状（腹部疼痛、悪心、あい気、腹部膨満感） 2.過敏性腸症候群

消化薬

	リスクの程度の評価		A 薬理作用	B 相互作用		C 重篤な副作用のおそれ		C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		D 濫用のおそれ	E 患者背景（既往歴、治療状況等）（重篤な副作用につながるおそれ）		F 効能・効果（症状の悪化につながるおそれ）		G 使用方法（誤使用のおそれ）			H スイッチ化等に伴う使用環境の変化		
	評価の視点		薬理作用	相互作用		重篤な副作用のおそれ		重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		薬理に基づく習慣性	適応禁忌	慎重投与（投与により障害の再発・悪化のおそれ）	症状の悪化につながるおそれ	適応対象の症状の判別に注意を要する（適応を誤るおそれ）	使用方法（誤使用のおそれ）			スイッチ化等に伴う使用環境の変化	用法用量	効能効果
				併用禁忌（他剤との併用により重大な問題が発生するおそれ）	併用注意	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの						使用量に上限があるもの	過量使用・誤使用のおそれ	長期使用による健康被害のおそれ			
胆汁成分	ウルソデオキシコール酸	ウルソ錠	利胆作用及び胆汁うっ滞改善作用、肝機能改善作用、胆石溶解作用		スルフォニル尿素系経口糖尿病用薬（血糖降下作用増強）、コレスチラミン等・制酸剤・脂質低下剤（本剤の作用減弱）	間質性肺炎（頻度不明）		1～5%未満（下痢）、0.1～1%未満（悪心、食欲不振、胸やけ、AST(GOT)・ALT(GPT)・Al-P上昇）、0.1%未満（嘔吐、腹痛、便秘、胃不快感等、全身けん怠感、めまい、白血球減少）、頻度不明（ビリルビン上昇、γ-GTP上昇）	0.1～1%未満（過敏症）		完全胆道閉塞（症状憎悪）、劇症肝炎（症状憎悪）、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人	重篤な膵疾患、消化性潰瘍、胆管胆石		原発性胆汁性肝硬変における肝機能の改善を目的で硬変期で高度の黄疸のある場合	原発性胆汁性肝硬変における肝機能の改善において1日900mgまで				1.1回50mgを1日3回経口投与する。 2.1日600mgを3回に分割経口投与。 3.1日600mgを3回に分割経口投与する。増量する場合の1日最大投与量は900mgとする。高齢者は用量に注意する	1.下記疾患における利胆［胆道（胆管・胆のう）系疾患及び胆汁うっ滞を伴う肝疾患］、慢性肝疾患における肝機能の改善、下記疾患における消化不良［小腸切除後遺症、炎症性小腸疾患］ 2.外殻石灰化を認めないコレステロール系胆石の溶解 3.原発性胆汁性肝硬変における肝機能の改善
	胆汁末																			
	デヒドロコール酸																			

制酸・健胃・消化・整腸を2以上標榜するもの

	リスクの程度の評価		A 薬理作用	B 相互作用		C 重篤な副作用のおそれ		C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		D 濫用のおそれ	E 患者背景(既往歴、治療状況等)(重篤な副作用につながるおそれ)		F 効能・効果(症状の悪化につながるおそれ)		G 使用方法(誤使用のおそれ)			H スイッチ化等に伴う使用環境の変化		
	評価の視点		薬理作用	相互作用		重篤な副作用のおそれ		重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		薬理に基づく習慣性	適応禁忌	慎重投与(投与により障害の再発・悪化のおそれ)	症状の悪化につながるおそれ	適応対象の症状の判別に注意を要する(適応を誤るおそれ)	使用方法(誤使用のおそれ)			スイッチ化等に伴う使用環境の変化	用法用量	効能効果
				併用禁忌(他剤との併用により重大な問題が発生するおそれ)	併用注意	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの						使用量に上限があるもの	過量使用・誤使用のおそれ	長期使用による健康被害のおそれ			
粘膜修復成分	アズレンスルホン酸ナトリウム	アズノール細粒	胃炎・胃潰瘍治療薬 粘膜抵抗強化作用を有し、潰瘍病巣を保護する					頻度不明(下痢・便秘・膨満感・腹痛・悪心・嘔吐等)											アズレンスルホン酸ナトリウムとして、1回2mg[アズノール細粒(0.4%)として0.5g、アズノール細粒(1%)として0.2g]を1日3回食前に経口投与(1回量を約100mLの水又は微温湯に溶解することが望ましい)。	胃炎・胃潰瘍における自覚症状及び他覚所見の改善
	アルジオキサ	イサロン	胃炎・胃潰瘍治療薬 粘膜抵抗強化作用を有し、組織修復を促進する		テトラサイクリン系抗生物質・ニューキノロン系抗菌剤(併用薬の作用減弱)			0.1～5%未満(便秘)			透析療法(アルミニウム脳症・アルミニウム骨症)	腎障害、高齢者					アルミニウム脳症・アルミニウム骨症(腎障害患者)		アルジオキサとして1日300～400mgを3～4回に分けて経口投与	胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃炎の自覚症状及び他覚所見の改善
	グリチルリチン酸塩	グリチロン(グリシン配合)	肝疾患治療薬 肝細胞障害の抑制及び抗アレルギー作用を有する		甘草を含有する製剤(偽アルドステロン症)、ループ利尿剤・チアジド系およびその類似降圧利尿剤[低カリウム血症(脱力感、筋力低下等)]	偽アルドステロン症(頻度不明)、横紋筋融解症の症状(頻度不明)					アルドステロン症・ミオパシー・低カリウム血症(低カリウム血症・高血圧症等の悪化)、血清アンモニウム値の上昇傾向にある末期肝硬変症(アンモニア処理能が低下)	妊婦又は妊娠している可能性のある婦人、高齢者	甘草を含有する製剤(偽アルドステロン症)、ループ利尿剤・チアジド系およびその類似降圧利尿剤[低カリウム血症(脱力感、筋力低下等)]						1回2～3錠、小児には1錠を1日3回食後経口投与	慢性肝疾患における肝機能異常の改善、湿疹・皮膚炎、小児ストロフルス、円形脱毛症、口内炎
	L-グルタミン	グルミン顆粒	胃潰瘍・十二指腸潰瘍治療薬 粘膜抵抗強化作用を有し、組織修復を促進する					0.1～5%未満(便秘、口渇、悪心、顔面紅潮)											1日1～2gを3～4回に分けて経口投与。高齢者では減量。	胃潰瘍、十二指腸潰瘍の自覚症状及び他覚所見の改善
	ゲファルナート	ゲファニールカプセル	胃潰瘍・十二指腸潰瘍治療薬 粘膜抵抗強化作用を有し、組織修復を促進する					0.1～5%未満(便秘、口渇、悪心、上腹部不快感)、0.1%未満[口内炎、下痢、舌炎、AST(GOT)・ALT(GPT)軽度上昇]	0.1%未満(過敏症)		妊婦又は妊娠している可能性のある婦人	高齢者							ゲファルナートとして1回50～100mgを1日2～3回経口投与。高齢者では減量。	急性胃炎・慢性胃炎の急性増悪期の胃粘膜病変(びらん、出血、発赤、急性潰瘍)の改善、胃潰瘍・十二指腸潰瘍
	銅クロロフィリン塩																			
	スクラルファート	アルサルミン錠	胃炎・消化性潰瘍治療薬 粘膜抵抗強化作用を有し、潰瘍病巣を保護する		クエン酸製剤(血中アルミニウム濃度上昇)、血清カリウム抑制イオン交換樹脂・ニューキノロン系抗菌剤・ジギタリス製剤・フェニトイン・テトラサイクリン系抗生物質等・甲状腺ホルモン剤・胆汁酸製剤(併用薬剤の吸収遅延・阻害、服用時間をずらす)キニジン(併用薬剤の排泄遅延)			0.1～5%未満(便秘、口渇、悪心)、0.1%未満(嘔気等)	頻度不明(発疹、蕁麻疹等)		透析療法(長期投与によりアルミニウム脳症、アルミニウム骨症)	腎障害(アルミニウム脳症、アルミニウム骨症)、リン酸塩の欠乏(リン酸塩の吸収阻害)、経管栄養処置・低出生体重児および新生児発育不全、高齢者					アルミニウム脳症・アルミニウム骨症等		1回1gずつ、1日3回経口投与。	胃・十二指腸潰瘍、急性胃炎、慢性胃炎の急性増悪期の胃粘膜病変(びらん、出血、発赤、急性潰瘍)の改善

制酸・健胃・消化・整腸を2以上標榜するもの

	リスクの程度の評価		A 薬理作用	B 相互作用		C 重篤な副作用のおそれ		C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		D 濫用のおそれ	E 患者背景(既往歴、治療状況等)(重篤な副作用につながるおそれ)		F 効能・効果(症状の悪化につながるおそれ)		G 使用方法(誤使用のおそれ)			H スイッチ化等に伴う使用環境の変化		
	評価の視点		薬理作用	相互作用		重篤な副作用のおそれ		重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		薬理に基づく習慣性	適応禁忌	慎重投与(投与により障害の再発・悪化のおそれ)	症状の悪化につながるおそれ	適応対象の症状の判別に注意を要する(適応を誤るおそれ)	使用方法(誤使用のおそれ)			スイッチ化等に伴う使用環境の変化	用法用量	効能効果
				併用禁忌(他剤との併用により重大な問題が発生するおそれ)	併用注意	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの						使用量に上限があるもの	過重使用・誤使用のおそれ	長期使用による健康被害のおそれ			
粘膜修復成分	塩酸セトラキサート	ノイエルカプセル	胃炎・胃潰瘍治療薬:防御因子を強化し、胃粘膜微小循環改善作用を有する					0.1～1%未満(口渇、悪心・嘔吐、下痢、便秘、胃部不快感・膨満感)、頻度不明[AST(GOT)上昇・ALT(GPT)上昇等]	0.1～1%未満(過敏症)			血栓(脳血栓、心筋梗塞、血栓性静脈炎等)、消費性凝固障害、妊婦または妊娠している可能性のある婦人							塩酸セトラキサートとして1回200mg(1カプセルまたは細粒0.5g)を1日3～4回食後および就寝前に経口投与	急性胃炎・慢性胃炎の急性増悪期の胃粘膜病変(びらん、出血、発赤、急性潰瘍)の改善、胃潰瘍
	ソファルコン	セスファルコカプセル	胃炎・胃潰瘍治療薬:防御因子を強化し、粘膜保護・組織修復作用を有する			肝機能障害・黄疸(頻度不明)		頻度不明(便秘、口渇、胸やけ)	頻度不明(過敏症)			妊婦又は妊娠している可能性のある婦人、授乳中の婦人、小児等							ソファルコンとして1回100mgを1日3回経口投与	急性胃炎・慢性胃炎の急性増悪期の胃粘膜病変(びらん、出血、発赤、急性潰瘍)の改善、胃潰瘍
	メチルメチオニンスルホニウムクロライド	キャベジンUコーワ錠	胃炎・消化性潰瘍・慢性肝疾患治療薬:防御因子を強化し、組織修復作用を有する、また肝障害改善作用を有する。					0.1%未満(便秘、下痢、あい気等)	0.1%未満(過敏症)			妊婦又は妊娠している可能性のある婦人、低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児、高齢者							1回25～75mgを1日3回経口投与。 高齢者では減量。	胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃炎における自覚症状及び他覚所見の改善、慢性肝疾患における肝機能の改善
消泡成分	ジメチルポリシロキサン	ガスコン錠	胃内有泡性粘液除去作用を有し、消化管内ガスを駆除する					0.1～5%未満(軟便、胃部不快感、下痢、腹痛、0.1%未満(嘔吐、嘔気、食欲不振、胃部重圧感、頭痛)											1.1日120～240mgを食後又は食間の3回に分割経口投与 2.検査15～40分前に40～80mgを約10mLの水とともに経口投与 3.検査3～4日前より1日120～240mgを食後又は食間の3回に分割経口投与	1.胃腸管内のガスに起因する腹部症状の改善 2.胃内視鏡検査時における胃内有泡性粘液の除去 3.腹部X線検査時における腸内ガスの駆除